

終着駅雑話 - その4 - (中部地方)



東海道本線熱海駅より分岐する伊東線十七号の終着伊東駅は、JRとして正しく終着駅であるが、伊豆急行の下田行に接続しており、数多い東京駅から直通の特急下田の停車駅に過ぎず、終着駅なる風情はない。

東海道本線清水駅から盲腸のような終着三保駅まで八軒の清水港線は、廃線になって久しいが、私が訪ねた当時は一日一往復のみで、朝の三保行に乗るには、前夜清水に泊まったのである。有名な三保の松原、伝説の羽衣の松に接したが、打寄せる駿河湾の海岸が、近時侵蝕される傾向にあるのは、大井川上流にダム建設の結果、それまで流下する土砂礫を沿岸流で補給していたバランスが断られたことが原因であるとか、自然の摂理の大切さを教えられた。

東海道本線大府駅から分岐する十九号の武豊線の終着武豊駅は、知多半島の東岸中部にある。明治十九年(一八八六年)東海道線敷設の材料輸送

の目的で開通した古い謂れのある武豊線なれば、むしろ武豊駅は始発駅の感が深いのである。

東海道本線大垣駅より分岐する五軒の赤坂線の終着赤坂駅は、旧中道道の宿場であった。近くに産出する良質の石灰岩搬出の路線として、大正八年(一九一九年)敷設されたが、昭和四五年赤坂村が大垣市に編入されると、分岐線であるのにJRとして東海道本線と称するのである。呵々!

昔のJR樽味線は大垣駅より二軒、終着の美濃神海駅までであったが、更に一〇軒延長され、終着は樽味駅となり、現在は民営の樽味鉄道であるが、濃尾大震災の痕跡とも云ふべき根尾断層や有名な淡墨桜の銘木は終着駅から遠くない。

高山本線の美濃太田駅より分岐する七〇軒の越美南線は、盆踊りで有名な郡上八幡を経て白鳥駅までであったが、御母衣ダム建設のため北濃駅が終着となった。後述の越美北線と相俟って、美濃と越前が結ばれることは、現時点でははかなき夢であり、現在は民営の良長川鉄道になっている。

高山本線猪谷駅から二〇軒の神岡線の終着神岡駅までは、現在民営の神岡



岡鉄道となり、終着は奥飛騨温泉口駅と称する。神岡は明治の初年より三井金属の企業城下街として栄え、亜鉛の産出を誇るが、下流富山県にイタイイタイ病の発生を招いた。その深い坑道を利用して東京大学が宇宙素粒子研究でノーベル賞の栄誉を得たことは敬服に値する。

中央西線の恵那駅より二軒、山城で有名な岩手村、寒天産出の山岡を経て、終着明知駅までのJR明知線は、今では民営の明知鉄道となっているが、明智町(現在恵那市に編入)としては、大山市の明治村に習って、正村と称して観光客の誘致に懸命である。

北陸本線福井駅より五軒の越美北線の終着である九頭竜湖駅は、久し振りに小京大野を経て、勝野までであったが、ダム建設のため延長された結果である。しかし、前述の如く、越美南線と結ばれる夢は実現性がない。

北陸本線津幡駅から七軒、穴水を経て、終着の尾、穴水に至る七尾線は、現在和倉温泉駅までがJRとして残り、それ以降は民営のバスに代行されている。また、穴水駅より富山湾を右に見て、珠

洲を経て終着の蛸島駅に至る能登線も民営の能登鉄道となっていたが、この四月より軌道ではなくバス路線になったので、三月には名残りの乗車客が可成りあったと聞く。

北陸本線高岡駅よりは南へ城端線三〇軒が、散居で知られる砺波平野を過ぎ、秘境五箇山を控えた終着の城端駅に達し、北(十六軒の氷見線が、伏木を経て、漁業の盛んな氷見駅に通じて、観光客も少なくない。

また、富山駅より北へ八軒、終着の岩瀬浜駅まで富山港線が走っておりその利用度は高い。東京新潟線に入れば、東京より上越新幹線三四〇軒が、終着の新潟駅に達していることは周知であるが、越後一の宮の弥彦神社の門前弥彦駅は、上越線東三条駅より十七軒の弥彦線の終着駅で、朱塗神格風の立派さに打た吉田駅まで来て、弥彦線に乗換える参詣者も少なくない。

新潟県内には、JR合理化で今は廃線となったが、昭和五〇年頃までに訪ねたものに、新発田駅から十九軒の赤谷線終着の東赤谷駅、東三条駅から東方八軒の終着越後長沢駅、信越本線来迎寺駅より十二軒の魚沼線終着の西小千谷駅がある。この西小千谷駅で、旅のメモリーとして入場券を求めんと思ひ、使用するためではなく、小銭の関係で「小人の入場券を下さ」と申したら、今までの小人の入場券など売ったことはないと思ひ、懐かしい思い出である。(M. K生)

改正不動産登記法

ここ数年におけるIT(情報技術)のめざましい発展により、現在、この日本においても情報の収集や発信は、インターネット抜きでは語れない状況となってまいりました。

その影響を受け、より正確な情報が必要となつてくるため、日本国内の様々な法律も改正がなされ、業務に直接関わってくる法律の一つとして不動産登記法があり、平成17年3月7日に改正されました。では、この法改正が私達の業務にどのような

影響を及ぼすのか、以下に述べようと思ひます。

①分筆登記における分筆後の土地の求積方法

今までの「分筆後の土地のうち一筆(以下「残地」)の面積については「登記簿地積から座標法や三斜法等によって求め積した土地」の面積を差し引く方法」(以下「差引計算」)により求めておりましたが、このたびの改正でこの規定がなくなつて、「分筆後の全ての土地について地積の求積方法を明らかに(以下「全画地求積」)にしなればならぬ」となりました。

その土地の面積もその土地の面積と一致するようになり、その土地の面積が稀であり、その大半は異なつていくというのが現状であります。

改正前までの残地地積は「差引計算」により求められていたことから、その大半は実測地積と異なつてはいるものの、残地を含め分筆後の土地の面積を全て足せば登記簿の記載上、つじつまが合つておりました。

しかし、改正後は、「全画地求積」を行うことになり、その状況で分筆後の全ての土地の面積を足せば、その大半は登記簿の記載上、つじつまが合いません。

②筆界確認作業における本人確認

用地測量に必ず必要であるのが、対象土地及び隣接土地の所有者(以下「利害関係人」)の筆界確認(筆界の立会い及び確定)であります。

今までは、立会の通知や連絡をして現地に来ていただいた人に口頭等で「本人である」とは「本人から委任された代理人

なぜば成る

私は学生の頃に、米沢で牛を食べようと友達と二人でレンタカーを借りて山形県へ行った事があります。その頃は、今は震災で大変な新潟県に住んでいたので新潟県に帰ってきた距離だったので、その時に立ち寄った上杉神社に上杉鷹山の言葉「なぜば成る、なぜば成らぬ何事も、成らぬ人は人の為さぬなりけり」と申したら、今までのことを思い出して、それまでも考えた事がありました。それまでも聞いた事はありまし

たが、その時やつと言わんとする事が分かつたように思ひ、何かを発見した様な気持ちになつた事があります。その頃は、今は震災で大変な新潟県に住んでいたので新潟県に帰ってきた距離だったので、その時に立ち寄った上杉神社に上杉鷹山の言葉「なぜば成る、なぜば成らぬ何事も、成らぬ人は人の為さぬなりけり」と申したら、今までのことを思い出して、それまでも考えた事がありました。それまでも聞いた事はありまし

たが、その時やつと言わんとする事が分かつたように思ひ、何かを発見した様な気持ちになつた事があります。その頃は、今は震災で大変な新潟県に住んでいたので新潟県に帰ってきた距離だったので、その時に立ち寄った上杉神社に上杉鷹山の言葉「なぜば成る、なぜば成らぬ何事も、成らぬ人は人の為さぬなりけり」と申したら、今までのことを思い出して、それまでも考えた事がありました。それまでも聞いた事はありまし

は効率化するにはシステムの改善や、積算に対する細かい点でのマニュアルが必要であり、統一化にはコミュニケーションが必要だと思ひます。私は私の考えが有るようになり、多くの人の考えや想ひがあります。その考えや想ひがバラバラにならない様に、細かきところの意図の弱さ故に挫折した事が多くあるように思ひます。

今、補償調査部内では効率化・統一化を図ろうという動きがあります。私が入社してから、部の内部事は初めてです。部内を良くしようと思ひながら形にならなかつた事がよくある形になります。私

は「なぜば成る」と思ひます。(S. H)

増えるだけでなく、登記する時間も増えることなるわけです。

したがって、これらの事を登記依頼者に、業務を行う私達が十分な説明により理解していただく必要があります。

また、今後、分筆登記を行う際、その大半が地積更正も共に行わなければならないという事に留意する必要があります。

③筆界確認作業における本人確認

用地測量に必ず必要であるのが、対象土地及び隣接土地の所有者(以下「利害関係人」)の筆界確認(筆界の立会い及び確定)であります。

今までは、立会の通知や連絡をして現地に来ていただいた人に口頭等で「本人である」とは「本人から委任された代理人

である」旨を確認していましたが、このたびの改正により、現地にきていただいた人が「本当に本人又は代理人」であるのかを、これから利害関係人のID証(本人または運転免許証や健康保健証等、代理人ならば本人の委任状及び代理人の運輸免許証や健康保健証等)の通知や連絡の際には利害関係人にID証の持参を求める必要があり、また、なぜ必要なのかを十分に説明する必要があります。

(N. S)

後編集

合併特例法の適用期限が今年3月末で完了しました。平成11年度には市町村の数が200強あったのが、平成18年度はおよそ100強になりました。ある県では村が消滅し、また非常に大きな面積を持つ市の誕生や越境合併、飛び地ならぬ飛び市が出来ると、日本地図はもとより行政組織も大きく変わります。

私たちは、この合併に伴う業務が大きな柱になると考えており、新組織となった行政に対し得意とする用地業務をどのようにつなぐかが最大のテーマとなります。吹聴も大きな宣伝です。是非紹介して頂ければ幸いです。(T. O)